

ま70th
ANNIVERSARY
町村合併70周年

神田紅 まむろ川講談会

創作講談

「鮭延越前守秀綱公一代記」

古典講談

「徂徠豆腐」

神田梅之丞

古典講談

「寛永三馬術出世の春駒」

日時

令和8年

8月29日(土)

17:00開場/17:30開演

会場

真室川町中央公民館大ホール

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町233-1

◇入場整理券 入場は無料ですが、下記の場所で事前配布する入場整理券が必要です。

真室川町役場 ☎0233-62-2050 真室川町中央公民館 ☎0233-62-2305

安楽城・釜淵・及位の各総合施設 まむろ川温泉「梅里苑」 ☎0233-62-2373

◇主 催/真室川町 ◇お問い合わせ/真室川町企画課 ☎0233-62-2050

ごあいさつ

江戸時代から人々を魅了してきた伝統話芸「講談」を、ここ真室川町で存分に体感いただいている「神田紅 まむろ川講談会」も、今回で6回を数えます。これまでの公演では、「郷土の英傑 鮭延越前守秀綱公一代記」、「真室川音頭の女 近岡ナカエ物語」と、いずれも町民になじみ深い人物を題材に語っていただきました。ご公演いただきました神田紅氏、また、これまでのすべての公演で脚本を書き上げていただきました当町出身の黒坂和弥氏に、心よりお礼申し上げます。当町は今年、町村合併70周年を迎えます。講談を通じ、より真室川町を知っていただき、その世界に浸っていただくと幸いです。

真室川町長 新田 隆 治

神田紅 プロフィール

福岡県出身。修猷館高校卒業、早稲田大学商学部中退後、文学座附属演劇研究所を経て女優の道を歩き始めるが、昭和54年講師・二代目神田山陽の語り口と講談の魅力にとりつかれ門下生となり神田紅を名乗る。



平成元年真打昇進・本牧亭にて昇進披露興行。その特異なキャラクターを生かし「芝居講談」という新しいジャンルを開拓。明るく楽しく分かりやすい芸風で、古典から現代ものまで幅広い作品を得意とする。講談のほかにも、女優、映画評論家、エッセイスト、レポーターとして活躍。

平成14年 紅一門を旗揚げ。現在弟子は5人。講談の普及のため講談教室「紅塾」で東京、福岡合わせて100余名の生徒を熱心に指導している。

平成13年 全日空機内寄席のパーソナリティー

平成22年 日本講談協会会長

平成27年 福岡市民文化活動功労賞

平成28年 日本講談協会会長再任

平成29年 台東区「スターの手型」顕彰

令和5年 福岡県文化賞

令和8年3月 日本講談協会会長職を後進に譲り退任

著書に「紅恋源氏物語」、「語って紅伝」、「女の独り立ち」、「紅流」など。

神田梅之丞 プロフィール

平成6年、神奈川県横浜市中生まれ、その後栃木県那須町で育つ。日本大学芸術学部映画学科卒業。将来を期待される若手講師で、実力・人気ともに急上昇中。

趣味は、長距離散歩、温泉。好物はカレー。出囃子は「狸々くずし」。

令和3年10月 六代目神田伯山に入門
令和8年2月 二ツ目昇進



鮭延越前守秀綱公の足跡

戦国時代末期、ここ真室川に、のちに鮭延城一万五千国の大名となる鮭延越前守秀綱が誕生しました。父・貞綱が庄内の武藤家に敗れると、まだ生れて間もない秀綱は和睦の条件に人質として差し出されました。元服し鮭延城主として帰還した秀綱は、山形城主・最上義光に攻め立てられ、武藤家を頼りに敗走します。その後、武藤家に内紛が起きると、今度は義光と呼応して武藤氏を滅ぼし、最上家に仕えました。

慶長五年、「北の関ヶ原」と言われる「慶長羽羽の合戦」で上杉軍の総大将・直江兼続と戦い、二万の敵軍にわずか四十五騎で立ち向かい、敵兵三百を討ち取りました。義光の絶体絶命の窮地を救った武功により最上家の重臣となった秀綱は、最上五十七万石の礎を築きました。

元和八年の最上家改易後は、古河藩老中・土井利勝に仕官し、禄の五千石を家臣に分け与え、八十四歳の生涯を閉じました。

秀綱は現在、家臣の墓に囲まれて茨城県古河市の正源山鮭延寺に眠っています。

時を経て、真室川町と古河市は、歴史を共有する深いつながりから姉妹都市としての交流を続けます。

演 目

◇神田 紅

●開口一番「講談やつてみまショー」

「真田幸村大阪出陣」より

◇黒坂 和弥

●「鮭延越前守秀綱公制作秘話を語る」

原作者の黒坂和弥氏に語っていただきます。

◇神田 梅之丞

●古典講談「寛永三馬術 出世の春駒」

寛永十一年、三代將軍の家光公が、父上のご法要の帰りに通りかかった愛宕山。山頂に見事に咲き誇った梅花を、「あれなる梅花、誰か一枝手折って参れ」と家光公。家臣が石段を登ろうとすると、「この石段、馬にて乗り上がつてみせよ!」。百八十六段の断崖絶壁のような石段。落ちれば命危うし。さて、どうしたものか...

◇神田 紅

●創作講談「徂徠豆腐」

元禄十四年三月十四日の刃傷松の廊下事件から一年九ヶ月後の、元禄十五年十二月十四日、赤穂浪士四十七人が吉良邸に討ち入ります。本来なら打ち首の刑に処せられる四十七人だが、武士として名譽の切腹のご沙汰が下る。この名裁定の進言をした人物が学者・荻生徂徠。貧しい学者徂徠と人の良い豆腐屋との心温まる物語。

お仲入り

◇神田 紅

●創作講談

「鮭延越前守秀綱公一代記」